

## おいしい米づくりは初期生育の確保からスタート!

良食味米生産に向け、まずは初期生育確保を目標に、イネが健全に生育できる土壌環境づくりと充実した苗づくりに取り組みましょう!

### 令和4年産米 春作業の重点事項 □チェック!

〈土壌環境づくり〉

□1. 有機物やケイ酸等土づくり資材を投入している。

ケイ酸等、土づくり資材を積極投入!異常気象対策にも有効!

□2. 品種、地力に応じた施肥設計を行っている。

**過剰施肥厳禁!** 昨年タンパクが高めだった場合は施肥量の見直しを!

一発基肥肥料は「基肥」+「追肥」の合計量を上限に!

**つや姫、雪若丸はマニュアルに基づく施肥を行いましょ**



□3. 耕起前、排水溝を掘る等、排水対策を行い、田面の乾燥を図っている。

乾土効果を得てスタートダッシュ!早めの耕起で稲わらの分解促進!

□4. 耕深を確保し、健全な根の生育環境づくりを行っている。

耕深は15cm以上を確保!**トラクターの耕起スピード、踏圧に注意!**



〈充実した苗づくり・適期移植〉

□5. 充実した苗づくりを行っている。田植え日に合わせ計画的に播種作業を行っている。

田植え日から逆算し、計画的に播種。充実した苗に仕上げる!伸びすぎ、老化苗は×

□6. 適期移植を行っている。

**移植適期は5月15日~20日。**5月25日が晩限!

どんな天候でも生育量が確保しやすい移植適期内に健苗で田植えを!

田植が遅れると、早い土壌の“ワキ”で生育抑制のリスクも!要注意!

□7. 適正栽植密度、適正植え付け深で田植えを行っている。

安定的な有効茎確保のため、㎡あたり100本は植え込むこと

【70株/坪:植込み本数は4~5本、60株/坪6~7本に揃える!】

植え付け深は3~4cm。株(植込み本数)を揃えて、茎数のバラつきを低減!

浅水管理で地水温確保、分けつ促進!

**STOP! 農作業事故! ・農薬は正しく安全に使用しましょう!**

## 1. 春作業に備えて

○積雪が多く春作業の遅れが懸念される水田では、融雪剤や融雪促進効果のある堆肥、資材等の散布や機械による除雪を行う。特に、中山間地域の育苗予定地において、育苗作業時期まで融雪が見込めない場合は、積極的な除雪を行きましょう！

## 2. 種子の予措 ～充実した苗づくりからスタート!～

### (1) 塩水選

○塩水を作る際の比重は、**うるち 1.13、もち 1.08**

※塩水選後は、きれいな水でよく洗う

	比重	水 100 当り 食塩の量(目安)
うるち	1.13	2.1kg
もち	1.08	1.3kg

◎作業の前に「比重計」や「卵」などで確認を！

### (2) 種子消毒

○薬剤処理の場合は、必ず使用方法（希釈倍数、使用時期、使用方法）を確認する

※**薬液の温度が低いと効果が劣る**場合があるため、10℃以上の水温を確保する

○温湯浸法の場合は、58℃20 分間又は 60℃15 分間で行います。発芽率の低下をまねくため、**古い種子やもち品種は控える**。温湯処理が終わったら、直ぐに冷水で冷やした後、水漬けを行う

※温湯浸漬処理後直ちに浸種しない場合は、再感染抑制のため脱水後通風乾燥し、籾水分を 15%まで低下させる

### (3) 水漬け ～温度計で確認を!!～

○水温は **10～15℃とし、10～12 日間程度** 行う。**積算水温で 120℃** を確保。播種日から逆算して水漬けを始めること。必ず温度計を設置し、水温を確認！

○2～3 日毎に水交換を行い、袋の位置（上下）を入れ替えて吸水ムラを防止する

○**浸種開始時**の水温が低すぎると、発芽率が低下する場合も。**最初の水温は 10℃以上**（ただし 15℃未満）になるよう調節

### (4) 催芽

○催芽は、**30～32℃で 20 時間** を目安とし、ハト胸状態を確認して終了すること

## 3. 播種 ～良い苗を適期に植えられるよう計画的に～

○育苗期間が長すぎると苗が老化し、活着不良や初期生育が遅れる要因に！

田植えの計画に合わせて播種日を決める

○10a 当たりに必要な苗箱数は、稚苗で 25 箱、中苗で 30 箱が目安

○作業時期の目安 **【5 月 20 日田植えの場合】**

田植え日から逆算して  
計画的に！

苗の種類	乾籾重 (g/箱)	水漬け日	催芽日	播種日	育苗期間	田植日
稚苗	150～180g	4 月 12 日	4 月 24 日	4 月 25 日	20～25 日	5 月 20 日
中苗	80～120g	4 月 2 日	4 月 14 日	4 月 15 日	30～35 日	

## 4. ばか苗病対策 ～育苗床の周りにモミ殻などありませんか～

○ばか苗病を保菌している稲ワラやモミ殻、施設や機材に付着した菌などが感染の原因となる場合もあるため、**育苗ハウス内や資材をきれいにし、種子や苗を置く周辺の稲ワラやモミ殻は必ず撤去！** 前年ばか苗病が多発した場合は特に念入りに確認を！

○**水漬け温度が 15℃を超えるとばか苗病の発生を助長**する場合があるため、水温に気を付ける。特に日の当たる場所に水槽がある場合は要注意！